

1. 取り組みの概要について

「街がまるごとミュージアム！」を合言葉にスタートした「アート de わくわくストリート」は今回で10周年を迎えるアートイベントである。高槻センター街商店街をはじめとした、高槻市中心市街地のあちこちで、様々なアートプロジェクトが1ヶ月間実施される。

子どもから大人までいろんな世代がアートでつながり、地域の人達を巻き込みながら高槻の街を活気ある空間にしていく～そんな将来像を描きながら、ボランティアスタッフを中心としたわくわくストリート実行委員会が活動を担っている。

実行委員会には、市民、商店主、ギャラリー、行政等、多様なメンバーが参加している他、アートの展示やワークショップ等には、幼稚園から大学生までの若い世代が参加できる工夫が凝らされている。本年度については、芸術系の学生の協力による、商店街や広場などでのライブペイントや、著名なクリエイターによるワークショップ等が開催され、作品数 総計約1,000点、高槻市中心部の商店街、百貨店、銀行、企業など45の会場が作品の展示会場となる、大阪を代表するアートイベントへと成長している。

【(企画詳細 —本年度の6大企画— ※HPより抜粋)】

企画1:10周年記念事業「人気絵本作家とつくるワークショップ」

企画2:「巨大キャンバス・ライブペイント」

まちなかに巨大キャンバスを設置してライブペイントを行います。何気ない街の風景が、アートの力によって非日常の空間へと変身します。駅前に設置した横10m×縦2mのキャンバスに、若手クリエイター・塩見ちひろ氏を中心とした有志が公開制作に挑戦します。大阪デザイナー専門学校の学生によるライブペイントと、地元ミュージシャンによる演奏のコラボを試みます。商店街の中の工事壁面にキャンバスを設置し、関西大学美術部と子ども達による共同制作を行います。ちょっと変わった道具や身体を使い、動きのある作品を完成させます。大阪デザイナー専門学校の学生が駅前百貨店のショーウィンドーに作品を描きます。

企画3:「まちなかアートリノベーション」

ビルの壁面や広場のタイルなどに直接ペイントを施し、雰囲気のある空間へと再生するプロジェクトです。今年は中心部の2ヶ所で新たな作品が誕生します。
ペDESTリアンデッキ再生アート 駅前人工デッキにガラススタイルのグラデーションを施し、新たなオブジェが誕生します。
高槻ウォールアートコンペティション 「オトのある街」をテーマに作品を公募、最優秀作品をビルの壁面に描きます。

企画4 「サウザンド(1000)アート」

百貨店の店内や金融機関のショーウィンドを中心に、約1000点の作品が高槻の街に出現します。

企画5 「巨大絵画アーケード展示」

縦3.5m×横2.7mの巨大絵画を展示する、アート de わくわくストリートのメインコンテンツです。子どもたちから大学生まで合計約1,000人の参加者が描いた36枚の巨大絵画が一面に広がります。

企画6 「手づくりクラフトマーケット」

近畿一円から約70人の若手クリエイターが集結するクラフト系のアートマーケットです。学生による路上アートも行われます。

2. 商店街概要

商店街名	高槻センター街商店街振興組合
所在地	〒569-0803 大阪府高槻市高槻町 14 - 23
会員数	84
URL	http://www.centergai.net/

【高槻センター街商店街 位置図】



3. 取り組みに至る経緯・背景

「わくわくストリート」は、「見上げれば子どもたちの夢が一杯」をテーマとし、子どもたちのための秋の恒例イベントとして毎年10月中旬から1ヶ月間、高槻センター街商店街のアーケードなどに縦2.7m、横3.5mの子どもたちが描いた巨大絵画を展示するイベントとして10年間継続してきた。

市内の保育所から高校生まで幅広い年齢層の34グループ、人数にして1000人以上の子どもたちが絵画の制作に参加していたが、イベントが継続するにつれ、児童を対象とした企画と、アートイベントとしての企画が混在し、全体のコンセプトをリニューアルしようという関係者の意見が強くなった。

平成20年には、「広がり連携」をテーマに、1,000点の作品を展示するサウザンドアート、ライブアート、ワークショップなど多数の企画を新たに加え、アートイベントとしての色彩をより強めた。また、プロジェクト数が飛躍的に増えた他、参加する若手クリエイターの層等の厚みが増し、イベントとしての規模が大幅に拡大した。

【イベントの告知ポスター】



【商店街を彩るアート風景】



4. 取り組み内容

「わくわくストリート」は、10年間継続してきた文化イベントだが、昨年度までは巨大絵画を商店街に展示するプログラムが主な内容となっており、イベントを楽しむ層の広がりも少なく、イベントとしての発信力も弱いという問題意識があった。

昨年度においては、アートイベントとしてのリニューアルを図ろうということで、商店街の理事のうち、やる気のあるメンバーが若手クリエイターに声をかける等し、プロジェクトが拡大していった。

また、メインスポンサーにジェイコムが加わったことにより、多数のプロジェクトの展開が可能となり、「まち全体を美術館に」というコンセプトに合致したイベントへと近づいていった。

【大学生たちによるライブアート】



5. 取り組みによる成果

「アートのみち」という新しい高槻のみちの付加価値を牽引するイベントが育ってきている。アートイベントとしてのリニューアルにより、市内、周辺都市の若手クリエイターとのつながりや、学生とのネットワークが構築されつつある。アート DE わくわくストリート以外のまちづくりの取り組みにも活かせると考えている。

イベントに参加する多様な人々が、公共空間や商店街を活動や自己表現の「場」として実際に使うことで、商業者やまちの人々の意識も「こんな風に使ってもよいのだ」という風が変わってくる。中には、「ではこんな風につかってはどうか」と考える人もでてくるのではという期待がある。

本年度については、中心市街地に新たに立地した関西大学との連携が進んだことは大きな成果である。

6. 取り組みにおける課題

プロジェクト数の拡大により、それを支えるボランティアスタッフの数もより多く必要となっている。現在は1人1人にかかる負担が大きく、各プロジェクトの質を高めたい場合でも、人員不足のため断念するケースもでてきている。

若手、地元のクリエイターの集まるイベントに、徐々になりつつあるが、もっとアーティストやクリエイターにとって魅力的な場として評価される取り組みにしていきたいと考えている。質を上げていくための工夫をどうするかが課題である。

会場の多くとなっている高槻センター街商店街の組合員の全てが積極的に参加しているわけではないので、今後組合員の一層の参加が必要である。

7. 連携した団体、キーパーソンについて

高槻センター街商店街をはじめ、周辺の商店街および百貨店がこのイベントの会場として店頭等を開放している。

また、市内・市外の大学・専門学校、高等学校との連携により実現したプロジェクトも多数あり、学生等が集う場として商店街が機能できる可能性が開けつつある。